

第6学年A組 道徳科学習指導案

授業者 小室 真紀
研究協力者 成田 龍一朗

- 1 主題名 誠実であるということ 【A(2) 正直・誠実】
教材名「手品師」(東京書籍)

2 子どもと主題

(1) 子どもについて

教材に出てくる人物の姿を借りて自分自身を語り始めることの多い子どもたちである。「ホットシーティング」や「葛藤のトンネル」など演劇的な手法を用いることで、多様な道徳的価値に触れながら、自分の道徳的価値観と向き合ってきた。

「学校は何のためにあるのか」について考えていったとき、「苦手なことでも挑戦していく前向きさが将来につながるよい経験になるから」「人とのコミュニケーションの練習の場になるため」と子どもたちは話し始めた。次に向き合う「はとの子学習発表会」に向けて士気を高めようとしたとき「先生は歌ってよいことはありましたか」とA児が尋ねた。目的の達成のために行動すること自体、そこに損得感情が潜んではいないかということをもA児に問われたように思えた。「よいことがあったかなかったかというより、みんなと心をつなげて歌う空気感が心地良い」と伝えたとき、「みんなできつにならないうね」と、明るい気持ちで自分の心と向き合おうとする子どもの姿を感じた。

(2) 主題について

どんなささやかなことでも、自分の良心に照らして決断したことへの納得が、その人の生き方を明るく「誠実」な言動へと導いていく。自分自身に「誠実」である生き方は、相手に対して真心ある言動となって表れてくる。とはいえ、人はいつでも「誠実」な言動をとることができるかと問われると、なかなか難しい。つい損得感情がよぎったり相手の受け止め方が過度に気にしたりしたとき「誠実」さからはほど遠く、真の自分であり続けることはほど遠くなっていくことがある。そんな弱さを乗り越えようと自身の心に問いかけていく過程に、相手の気持ちを慮った思いやりやよりよく生きようとする明るさが流れ、自身の納得いく誠意が「誠実」な生き方を形づくっていくだろう。

本教材「手品師」は、いつか大劇場に立ちたいと努力していた手品師が「さびしそうにしていた小さな男の子に明日も来て手品を見せるという約束」と「友達から舞い込んだ、夢に見た大劇場に立てるチャンス」との間で葛藤する。悩み抜いた手品師は、男の子との約束を果たし、町の片隅で男の子相手に手品を演じすがすがしい気持ちに包まれる。どちらを選択するか葛藤し、決断に至るまでの手品師の心内に共感する中で、「誠実」とはどうあるべきかについて考えを深め、自分自身を見つめ直すきっかけとなっていくだろう。

本主題では、手品師を決断させたものは何かについて仲間と議論することを通して、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで【正直・誠実】の道徳的価値の理解の幅を広げるとともに、自己の生き方を見つめ直し、よりよい生き方を目指していこうとする道徳性である「資質・能力」を高めていく。

(3) 指導について

子どもたちは、印象的な場面として、大劇場に出るか小さな男の子との約束を守るかを迷いに迷う場面を挙げるだろう。ふつうなら夢にまで見た大劇場で演じる方を選択するだろうに、なぜ迷うのか。子どもたちから自然にわき上がった疑問をもとにした学習問題を中心に授業を構成していきたい。軽い気持ちからした約束とは言え、約束は守るべき【正直】、相手の気持ちを慮る優しさ【思いやり】、「私」を優先した決断をすることで伴う責任【責任】、自身の心にうそや偽りがなく明るい心で生活をする【誠実】といった多様な道徳的価値にふれた考え方をホットシーティングの場を通して全体で共有していく。

さらに、「男の子との約束」と「大劇場に立つ夢」との間で迷う手品師に共感しながらも大劇場に「行くべきか」「行くべきではないのか」について問う場を設定する。そこで、演劇的な手法を取り入れ、手品師になりきった友達からの「心の声」を浴びながら「葛藤のトンネル」を通り、自分の考えを選択・決定することで、多様な道徳的価値が内包されていることを改めて実感していく子どもたちと【誠実】の意味を掘り下げていく。最後に選択の結果どんな気持ちでいるのか、ホットシーティングを通して自分の道徳的価値観と向き合う場とする。

本主題で育む資質・能力を高めていくために、自分の心に正直であることを基盤とした納得のいく決断が自分はどう在りたいかという生き方の根っこを醸成していく「学びのものさし」という気付きに着目することで、大切にしたい誠実な生き方は何かを自身に問い、自分が抱く【誠実】の捉えの幅を広げ、自分の生き方を見つめていく子どもの姿を期待している。

3 本時の実際 (1 / 1)

(1) ねらい 手品師が迷った理由について話し合うことをきっかけに、誠実な自分を支えるものについて考え、自分を客観的に見つめることで、誠実な心情についての理解の幅を広げ、誇りをもって生きようとする判断力や心情を高める。

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価																		
5分	① 「手品師」を読んで、話し合いたいことを決める。	・決断を迷った場面で切った「手品師」を読んで印象的な場面を取り上げ、その理由をもとに話し合いたい方向性を定める。																		
17分	② 手品師が迷った理由について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">軽い気持ちでした約束だったのに、手品師は、なぜ迷ったのか。</div> ホットシーティング (小グループ)	・ふつうなら手品師の夢である大劇場に行く決断をしてもよいはずなのに、小さな男の子に手品を演じることと迷う手品師の言動を不思議に感じる子どもの考えをきっかけに、話し合いの場を広げていく。 ○迷いに迷った手品師の気持ちをインタビューする活動 (ホットシーティング) の中で、そこに多様な道徳的価値が内包されていることを実感できる場とする。																		
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">子どもの反応</th> <th style="width: 40%;">手品師がとった言動の背景を想像すると</th> <th style="width: 30%;">道徳的な価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a 大劇場に立つ夢が叶う</td> <td>・この先、食べていけるから安心。 ・自分の目標が達成され明るい気持ちになる。</td> <td>【希望】</td> </tr> <tr> <td>b 約束は守るべき</td> <td>・軽い気持ちとは言え、言ったことは実行しなければ後味が悪い。</td> <td>【正直】</td> </tr> <tr> <td>c 男の子を悲しませたくない</td> <td>・約束をやぶることで男の子が悲しい思いをするのは自分のせいだ。 ・もし約束をやぶると大人を信用しない人間に育つかもわからない。</td> <td>【責任】</td> </tr> <tr> <td>d 男の子を元気づけたい</td> <td>・男の子がひとりぼっちで寂しい思いをしていることに共感しての優しさ。</td> <td>【思いやり】</td> </tr> <tr> <td>e 大観衆にとっては一時の楽しみだが、男の子にとっては一生の励みになるかもしれない</td> <td>・そもそも、自分の手品で見る人を笑顔にできたら幸せだと願っていた自分の本意をかみしめた。</td> <td>【誠実】</td> </tr> </tbody> </table>	子どもの反応	手品師がとった言動の背景を想像すると	道徳的な価値	a 大劇場に立つ夢が叶う	・この先、食べていけるから安心。 ・自分の目標が達成され明るい気持ちになる。	【希望】	b 約束は守るべき	・軽い気持ちとは言え、言ったことは実行しなければ後味が悪い。	【正直】	c 男の子を悲しませたくない	・約束をやぶることで男の子が悲しい思いをするのは自分のせいだ。 ・もし約束をやぶると大人を信用しない人間に育つかもわからない。	【責任】	d 男の子を元気づけたい	・男の子がひとりぼっちで寂しい思いをしていることに共感しての優しさ。	【思いやり】	e 大観衆にとっては一時の楽しみだが、男の子にとっては一生の励みになるかもしれない	・そもそも、自分の手品で見る人を笑顔にできたら幸せだと願っていた自分の本意をかみしめた。	【誠実】
子どもの反応	手品師がとった言動の背景を想像すると	道徳的な価値																		
a 大劇場に立つ夢が叶う	・この先、食べていけるから安心。 ・自分の目標が達成され明るい気持ちになる。	【希望】																		
b 約束は守るべき	・軽い気持ちとは言え、言ったことは実行しなければ後味が悪い。	【正直】																		
c 男の子を悲しませたくない	・約束をやぶることで男の子が悲しい思いをするのは自分のせいだ。 ・もし約束をやぶると大人を信用しない人間に育つかもわからない。	【責任】																		
d 男の子を元気づけたい	・男の子がひとりぼっちで寂しい思いをしていることに共感しての優しさ。	【思いやり】																		
e 大観衆にとっては一時の楽しみだが、男の子にとっては一生の励みになるかもしれない	・そもそも、自分の手品で見る人を笑顔にできたら幸せだと願っていた自分の本意をかみしめた。	【誠実】																		
15分	③ 「葛藤のトンネル」を通り大劇場に「行くべきか」「行くべきでないか」自分の考えを話す。	○ホットシーティングで出されたやりとりをもとに、大劇場に「行くべきか」「行くべきではないか」友達の「心の声」を受けながら「葛藤のトンネル」を通り、自分の考えを話す場を設定する。分類し意味付けていくことで、多様な道徳的価値が内包されていることを実感できる場とする。																		
8分	④ 選択の結果どうだったのか、手品師の気持ちについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">選択の結果、どんな気持ちか。</div> ホットシーティング (全体) ・夢は実現したが、何か心にひっかかる。 ・小さな約束かもしれないが、自分の決断に納得。晴れやかな気持ち。	○c、dが他者に向けてのものであるのに対し、a、b、eが自己の内面に向かっている。中でもeは自己の本来の生き方を探っている。選択の結果どうだったのかをインタビューする活動(ホットシーティング)を通して、子ども自身が自分の【誠実さ】(「学びのものさし」と向き合い、道徳的価値観の深まりを実感できる場とする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">手品師が迷った理由を考えることを通し、自分の良心と向き合うことで自身が納得した判断をし、明るい心で誇りをもって生きていこうとする誠実な心情を高める。(発言・ノート)</div>																		

令和5年度 道徳科実践・研究計画

部 員	○鎌田 佳佑、伊藤 智美、三浦 茉莉、伊藤 敏幸、井谷 紀子、小室 真紀
-----	--------------------------------------

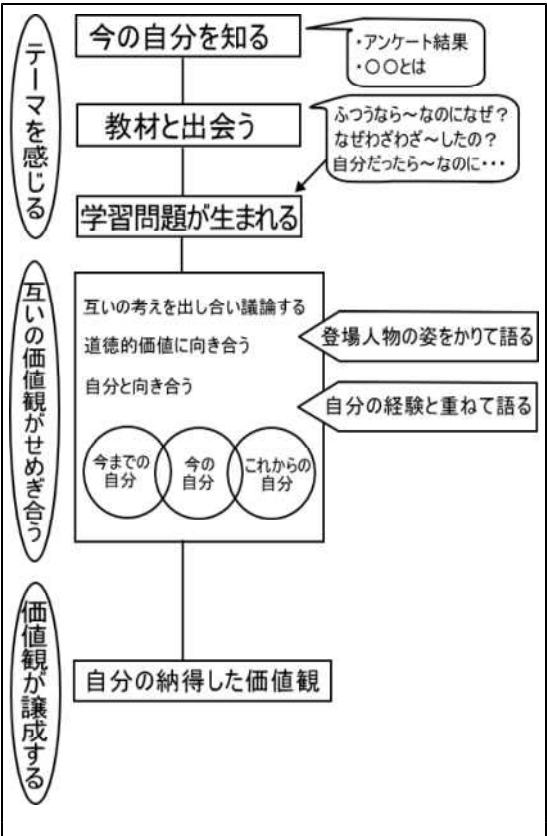
研究テーマ
**道徳的価値に向き合い、
 自己の生き方をより深く、より豊かに見つめ直す子どもを育む学び**

1 研究テーマについて

昨年度までに子どもたちは、演劇的手法を用いた活動に意欲的に取り組みながら、教材から浮かび上がる道徳的価値を、自分事として捉えられるようになってきた。しかし、自分の意見は述べられても、仲間の声を聞き、自分と仲間が感じている道徳的価値観をすり合わせる事が十分にできていない子どもたちの姿も見られた。

こうした現状を踏まえ、自分事として捉えたことを、仲間とともに比較・検討できるような学習活動の工夫をしていく。そのために、互いの価値観がせめぎ合い、改めて自己を見つめ直せるような議論のテーマを設定し、その中で見えてくる道徳的価値観の発見の場を授業の核に据える。さらに、自分の納得した価値観を基に省察する場面を設けることで、自己の生き方を見つめ直すことができるようにしていく。

道徳的価値に真正面から向き合い、行為の意味や理由などを分析したり自己の生き方を発信したりすることが道徳的価値観を醸成させていくのだと考える。それが自己をより深くより豊かに見つめ直し、生きていく展望につながっていくことと期待し、道徳科の研究を積み重ねていく。



図：道徳科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

道徳科で目指す自律した子どもの姿

- ・教材の登場人物への共感的追求から広げ、その行為やその背景にある思いについて語り合う姿
- ・仲間の考えにふれる中で、自身の考えを多面的・多角的に吟味し、気づきを生み出しながら自己の生き方を見つめ直す姿
- ・「対話」を通して道徳的価値を実感し、自己の生き方の中で実現していこうという思いをもつ姿

2 研究の重点 〈○は具体的な取り組みの例〉

自分事として捉えたことを、仲間とともに比較・検討できる授業づくりの手立て

- 議論を通して自身の考え方を多面的・多角的に見つめるために、複数の立場から意見をもてるようなテーマ設定の仕方を工夫する。
- 教材を通して道徳的価値の理解を広げたり深めたりする中で、自分事として納得する道徳的価値観を見いだすことにつながるように、学習活動の場を工夫する。
- 道徳的価値を窓口に、「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」を視点とした「省察」の場を設定する。

令和5年度 道徳教育全体計画

秋田大学教育文化学部附属小学校

児童の実態 ・伸び伸びとして明るい ・素直で受容力がある ・知的好奇心が旺盛	学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく	保護者、地域の願い ・心豊かな子どもの育成 ・学力の向上

目指す子ども像 ☆思いやりの心を持ち、互いのよさを認め合って高まろうとする子ども ☆自分で判断して、正しい行動をつらぬく子ども ☆心身ともに健康で、生き生きと活動する子ども ☆目標を持ち、最後まであきらめず努力する子ども ☆学ぶ楽しさを見いだし、よりよいものを求めて工夫する子ども ☆自分の可能性を信じ、挑戦する子ども
--

道徳教育の目標 お互いのよさを認め合いながら、自ら考え、よりよく生きようとする子どもを育てる。

特別活動における道徳教育		各学年の重点目標		各教科における道徳教育	
学級活動 友達と協力し、進んで活動することを通して、望ましい人間関係を育成する。	低学年 ○基本的な生活習慣を身につけ、よりよく生活する。 A(3)節度ある生活態度, A(1)善悪の判断 ○友達や身の回りの人に温かい心で接し、仲良く助け合う。 B(6)思いやり・親切	国語 表現力を高めることにより、人間性豊かにものごとを感じる心情を育てる。	中学年 ○自分なりのめあてをもって積極的に取り組み、最後までやり遂げようとする。 A(5)勤勉・努力 ○学年や学級集団の中で、自分や友達の良さを認め合い、協力し合う。 B(6)思いやり・親切, B(9)友情・信頼	社会 社会生活について理解し、国土と歴史に対する理解と愛情を育てる。	
児童会活動 異年齢集団による交流などを通して、望ましい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりに参画する態度を育てる。	高学年 ○集団の中で、主体的に自分の役割を自覚して責任を果たし、協力して活動する。 C(16)役割と責任の自覚 ○相手の立場になって考え、誰に対しても思いやりの心をもって接する。 B(7)思いやり・親切	算数 問題解決の見通しをもち、筋道を立てて考える態度を育てる。	理科 自然に親しみ、生命を尊重し、自然環境を大切にする態度を育てる。	生活 具体的な活動や体験を通して、基本的な生活習慣や自立への基礎を養う。	
クラブ活動 異年齢交流のもとで、互いに協力して興味・関心を高め、個性を伸ばし、生活を豊かにする態度を育てる。	※全学年共通の重点項目 D 生命の尊さ		音楽 音楽を愛好する心情や感性を育て、美しいものや崇高なものを尊重する心を養う。	図工 造形的な活動の喜びを味わうことを通して、豊かな情操や創造性を養う。	
学校行事 望ましい集団への所属感や連帯感の自覚を深め、協力・勤労・奉仕などの道徳性を育てる。	道徳の時間 研究テーマ・研究の重点 道徳的価値に向き合い、自己の生き方をより深く、より豊かに見つめ直す子どもを育む学び ○多面的・多角的に自己の生き方を見つめていくことのできる授業づくりの工夫		家庭 自分の生活を見直し、家族の一員として、家庭生活を大切にする心情を育てる。	体育 健康や安全に気を付け、きまりを守って協力し合う態度を育てる。	
外国語活動における道徳教育					
国際理解を深め、世界の人々との親善に努める態度を養う。					
総合的な学習の時間における道徳教育					
問題を解決する資質や、自己の生き方を考える心を養う。					

道徳的実践の日常化			
生徒指導における道徳教育	学級・学校環境における道徳教育	体験活動における道徳教育	家庭・地域・社会との連携
・望ましい人間関係の確立を図る。 ・子ども一人一人が自分のよさや可能性を發揮できるように支援する。 ・基本的な生活習慣の定着を図り、健康で安全な生活を営む態度を育てる。	・校内の美化や整理整頓 ・子どもの心に響く道徳に関する掲示 ・子どもと教師との信頼関係づくり	・全教育活動における豊かな体験を通して、豊かな心をもち、進んで行動しようとする態度を育てる。 ○わくわく班活動 ○ボランティア活動 ○自然体験活動 ○文化芸術体験活動 ○集団宿泊活動(5年)	・子どもの姿をもとに保護者との話し合いの場を設け、相互理解を図る。 ・地域の人との交流を深め、郷土のよさに気付かせる。 ・道徳の時間の授業を積極的に公開する。 ・4校園の連携を図る。